

平成26年度第1回美術館協議会次第

日時 平成26年10月24日（金）14時～

会場 県立美術館 総合実習室

開会

- 1 委嘱状交付
- 2 県教育委員会教育次長あいさつ
- 3 会長、副会長選任
- 4 会長あいさつ
- 5 館長あいさつ
- 6 議事
 - (1) 平成25年度事業報告等について
 - (2) 平成26年度事業報告及び予定等について
 - (3) その他

閉会

山梨県立美術館協議会資料

平成26年10月24日(金)

山梨県立美術館

目 次

ページ

<u>山梨県立美術館協議会名簿</u>	1
<u>山梨県附属機関の設置に関する条例 他</u>	2
<u>山梨県立美術館組織図</u>	4
<u>指定管理者組織図</u>	5
<u>山梨県立美術館活動報告(概要)</u>	6
<u>観覧者数の推移</u>	7
<u>施設利用者の状況</u>	8
<u>平成25～27年度 特別展等一覧</u>	9
<u>教育課程の実施状況について</u>	11
<u>指定管理者活動報告</u>	17

山梨県立美術館協議会委員名簿

任期:平成26年10月1日～平成28年9月30日

区分	氏名	役職	出身分野(勤務先等)
委嘱	市川 清	山梨県市町村教育委員会連合会代表	社会教育関係 (富士吉田市教育委員)
"	三枝 博	山梨県社会教育委員連絡協議会代表	社会教育関係 (山梨市社会教育委員)
"	秋山 弘	ミュージアム甲斐・ネットワーク(美術)代表	学識経験者 (春仙美術館事務局長)
"	鶴田 一香	山梨県文化協会連合会代表	学識経験者 (山梨県文化協会連合会会長)
"	古屋 知子	元山梨県教育委員会教育委員長	学識経験者 (元山梨県教育委員会教育委員長)
"	須田 國生	山梨県美術協会代表	学識経験者 (山梨県美術協会代表)
"	高野孫左門	株式会社吉字屋本店代表取締役社長	学識経験者 (株式会社吉字屋本店代表取締役社長)
"	野口 英一	報道関係	学識経験者 (山梨放送・山梨日日新聞社社長)
"	金丸 康信	報道関係	学識経験者 (テレビ山梨代表取締役社長)
"	飯野 奈津子	報道関係	学識経験者 (NHK甲府放送局局長)
"	笹本 禮子	山梨県立美術館協力会代表	学識経験者 (山梨県立美術館協力会副会長)
"	矢島 良夫	公募委員	家庭教育関係者
"	長谷川 由希	公募委員	家庭教育関係者
任命	齊藤 文栄	山梨県公立小中学校長会代表	学校教育関係 (笛吹市立一宮北小学校校長)
"	秋山 宏子	山梨県高等学校長協会代表	学校教育関係 (県立山梨高等学校長)

○山梨県附属機関の設置に関する条例（抜粋）

（趣旨）

第一条 この条例は、法令又は他の条例に別に定めのあるものを除くほか、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第百三十八条の四第三項に規定する附属機関に関し、必要な事項を定めるものとする。

（附属機関の設置及び担当事務）

第二条 知事の附属機関として、次に掲げる機関を設置する。

（略）

2 教育委員会の附属機関として、次に掲げる機関を設置する。

（略）

山梨県立美術館協議会

山梨県考古博物館協議会

山梨県地方産業教育審議会

山梨県文学館協議会

（組織）

第四条 附属機関は、別表第一、別表第二及び別表第三の委員の定数欄に掲げる数の委員で組織する。

2 委員は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の要件欄に掲げる者のうちから、知事（教育委員会の附属機関にあつては、教育委員会。以下同じ。）が任命し、又は委嘱する。

3 委員の任期は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の任期欄に掲げるとおりとする。（会長等）

第五条 附属機関に、規則で定めるところにより、会長又は委員長（以下「会長」と総称する。）及び副会長又は副委員長（以下「副会長」と総称する。）を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、附属機関を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

5 副会長が置かれていない附属機関にあつては、会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第六条 附属機関の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、規則で定める場合を除くほか、委員の二分の一以上が出席しなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委任）

第八条 この条例に定めるもののほか、附属機関の担当事務、組織及び運営等に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第一（第二条、第四条関係）

二 教育委員会の附属機関

附属機関	担当事務	委員の定数	委員の要件	委員の任期
山梨県立美術館協議会	博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二十条第二項の規定による山梨県立美術館の運営に関する事項の調査審議及び意見の具申に関する事務	十五人以上	一 学校教育の関係者 二 社会教育の関係者 三 家庭教育の向上に資する活動を行う者 四 学識経験のある者	二年

○山梨県附属機関の設置に関する条例施行規則（抜粋）

（趣旨）

第一条 この規則は、山梨県附属機関の設置に関する条例（昭和六十年山梨県条例第三号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

（補欠委員の任期）

第三条 委員に欠員を生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（平六教委規則二・旧第二条繰下）

（会長及び副会長）

第四条 条例第五条第一項の規定により、附属機関に会長及び副会長一人を置く。

（定足数の特例）

第五条 条例第六条第二項の規則で定める場合は、次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議について、同表の定足数欄に掲げる数の委員が出席しなければ開くことができない場合とする。

附属機関	定足数
山梨県高等学校入学者選抜制度審議会	過半数
山梨県へき地等教育振興審議会	過半数
山梨県立美術館協議会	過半数
山梨県考古博物館協議会	過半数
山梨県文学館協議会	過半数
山梨県地方産業教育審議会	過半数
山梨県スポーツ振興審議会	過半数

（意見の陳述）

第九条 関係職員は、会長の許可を得て、附属機関の会議に出席し、審議事項に関して意見を述べることができる。

（定例会及び臨時会）

第十二条 次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議は、定例会及び臨時会とし、定例会の開催回数は、同表の開催回数欄に掲げるとおりとする。

附属機関	開催回数
山梨県立美術館協議会	年二回
山梨県考古博物館協議会	年二回
山梨県文学館協議会	年二回

2 前項に規定する臨時会は、必要に応じて開催する。

（昭六一教委規則一・旧第十一条繰下、平元教委規則五・一部改正）

（庶務）

第十三条 附属機関の庶務は、次の表の所属欄に掲げる所属において処理する。

附属機関	所属
山梨県図書館協議会	図書館
山梨県高等学校入学者選抜制度審議会	高校教育課
山梨県へき地等教育振興審議会	義務教育課
山梨県特別支援教育振興審議会	高校教育課
山梨県立美術館協議会	美術館
山梨県考古博物館協議会	考古博物館
山梨県文学館協議会	文学館
山梨県地方産業教育審議会	高校教育課
山梨県スポーツ振興審議会	スポーツ健康課

（昭六一教委規則一・旧第十二条繰下・一部改正、昭六三教委規則七・平元教委規則五・平四教委規則三・平六教委規則二・平八教委規則四・平九教委規則八・平一九教委規則三・一部改正）

（委任）

第十四条 この規則に定めるもののほか、附属機関の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が当該附属機関に諮って定める。

○博物館法（抜粋）

（博物館協議会）

第二十条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第二十一条 博物館協議会の委員は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

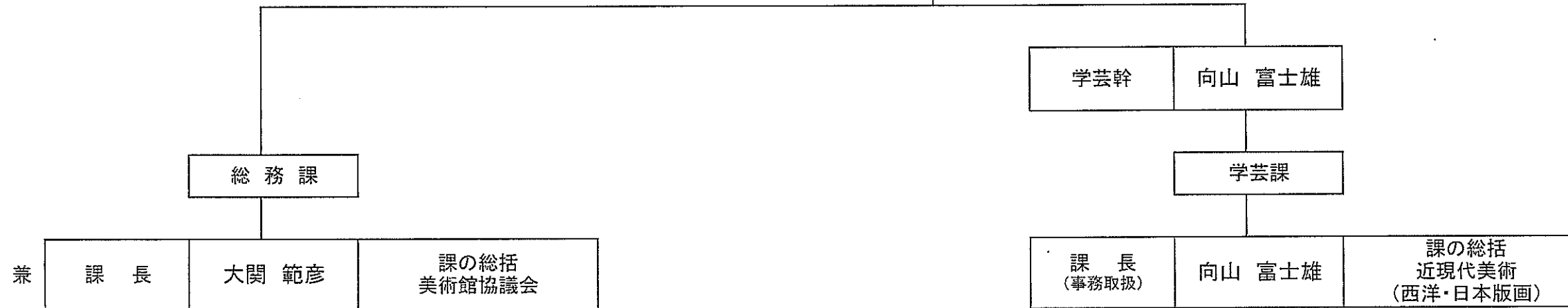
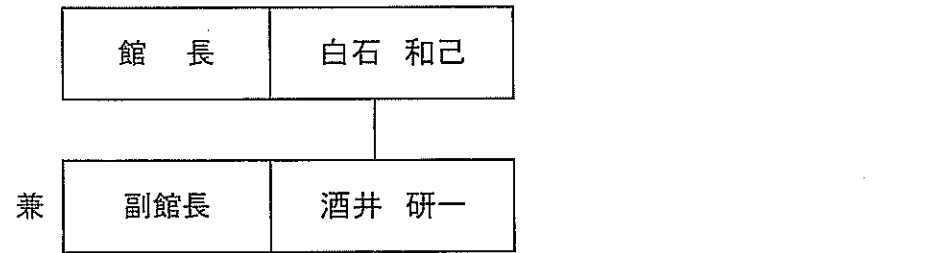
第二十二条 博物館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

美術館組織図

平成26年10月1日現在

所属名	県立美術館		
正規職員	非常勤嘱託職員	臨時職員	計
14	5	1	20
兼(5)	兼(1)		兼(6)

兼は文学館との兼務 内数



兼	課長	大関 範彦	課の総括 美術館協議会
---	----	-------	----------------

職名	氏名	主たる業務
兼 リーダー 主査	名取 浩樹	担当の総括 予算管理
兼 主事	丸山 衛嗣	会計・経理
兼 主事	疋田 舞夢	会計・経理 旅費・福利
兼 非常勤 嘱託	小尾 祐子	職員給与等 共済組合、互助会

学芸担当

職名	氏名	主たる業務
リーダー 学芸員	井澤 英理子	担当の総括 日本美術
学芸員	高野 早代子	県関係作家 作品保存管理
学芸員	太田 智子	近・現代美術 西洋美術(ミレー・バルビゾン)
学芸員	小坂井 玲	近・現代絵画 西洋美術(ミレー・バルビゾン)
学芸員	森川 もなみ	近代美術
非常勤 嘱託	雨宮 千鶴	学芸補助
非常勤 嘱託	伊藤 茜	学芸事務
臨時 職員	数野 純哉	学芸事務

普及担当

職名	氏名	主たる業務
リーダー 学芸員	平林 彰	担当の総括 美術館教育
主査・ 教育主事	中島 博美	美術館教育
主査・ 教育主事	五味 一也	美術館教育
非常勤 嘱託	露木 和雄	協力員指導

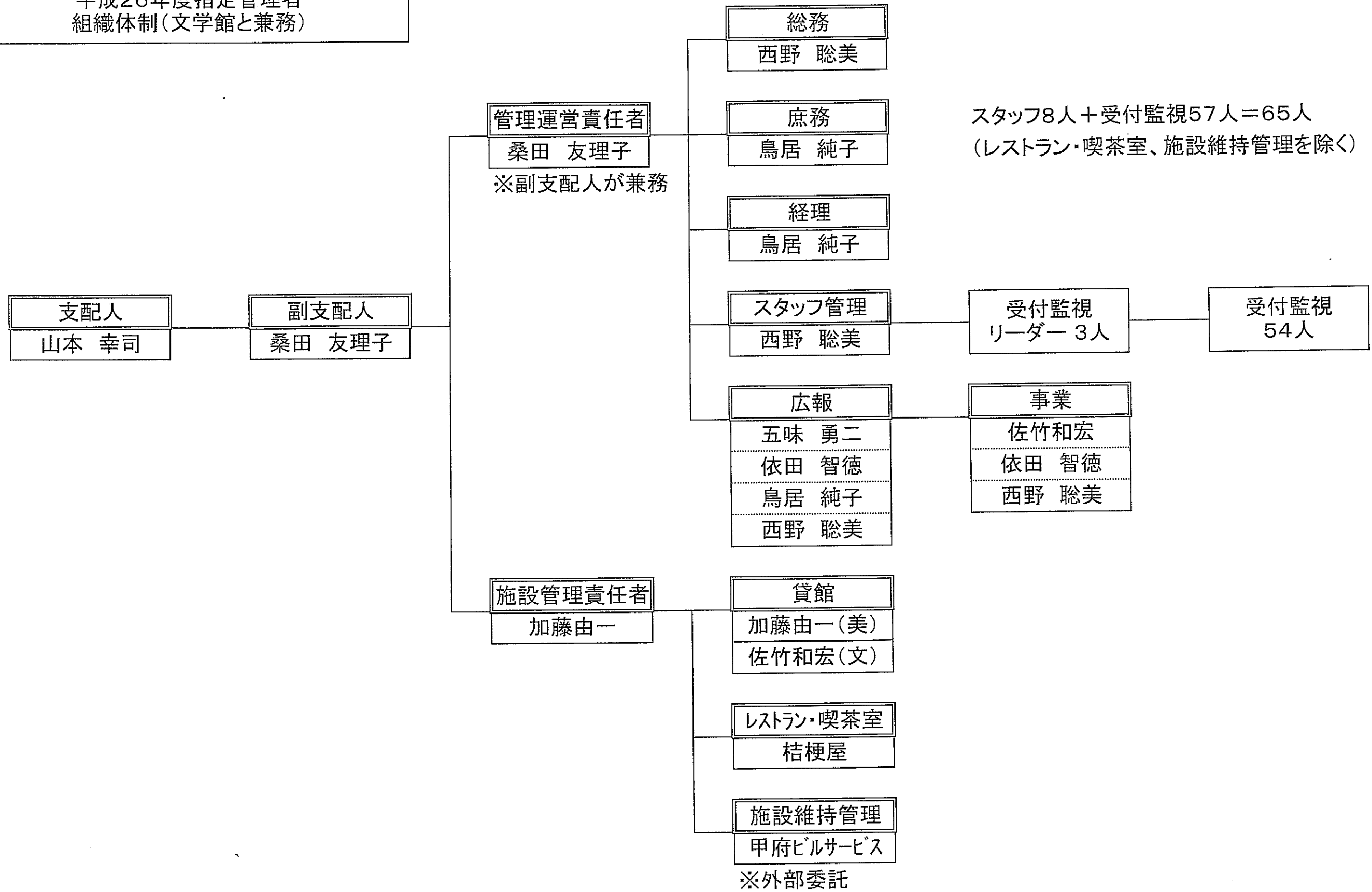
美術館協力会

職名	氏名	主たる業務
協力会 職員	内海 仁美	協力会経理
協力会 職員	小杉 佳子	協力会売店

※副館長及び総務課職員は、文学館と兼務

平成26年度指定管理者
組織体制(文学館と兼務)

平成26年10月1日現在



山梨県立美術館活動報告（概要） 平成26年度 後期並びに27年度前期

美術館活動における長期目標

○県民の美術に関する知識・教養の向上を図り、県民文化の発展に寄与するため以下のような長期目標を掲げる。

【展示／見る】幅広いジャンルでの質の高い特別展示とともに「西洋美術」「山梨ゆかりの美術」「日本の近現代美術」などのコレクションを使った常設企画展示の一層の充実を図る。

【教育普及／学ぶ】生涯学習の進展や教育課程における総合学習の充実化にともない、より多様な学習機会の提供を行う。

【付加価値・魅力／憩う】本来の美術館機能に加え、さまざまな付加価値を充実させ、より魅力ある「憩いの場」の創造と提供を行う。

平成26年度の活動の状況

【展示／見る】

〈常設展〉

- ・開館35年を記念した常設展示Ⅱの企画展示「コレクションのあゆみ」
2013年秋の展示から2014年秋までの5期にわたり、1977年から2012年までに収蔵した作品を収蔵年ごとに展示した。
- ・多様な来館者ニーズに応え、幅広いジャンルの特別展や魅力ある常設企画展を開催する。
- ・これまでの常設展のイメージを一新した年4回の企画展示を行う。
- ・「ミレー館」の開設以降、集客を維持するための魅力を改めて県外にPRするための積極的な広報活動の実施（県観光部、国文祭課、JR東日本・JR東海・山梨交通・甲府市観光協会・甲斐市観光課などとの連携）。大手旅行会社との連携による旅行ツアーにより顧客確保の増進に努めた。（京都信用金庫から12,000人）
- ・収蔵品を利用したコレクション企画展「山梨の魅力～風景と人々の営み」を開催予定。
平成27年1月31日（土）～3月1日（日）

〈特別展〉

- ・動く！光る？魔法の芸術 キネティックアート展 4月26日（土）～6月15日（日）
- ・生誕200年 ミレー展 ～愛しきものたちへのまなざし～ 7月19日（土）～8月31日（日）
開館35年とミレー生誕200年を記念の年を有意義に活用し、全国に向けてアピールした。
- ・やまなしの戦後美術 四人の革新者たち 9月20日（土）～11月3日（月・祝）
- ・大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角 11月15日（土）～1月18日（日）

【教育普及／学ぶ】アートレクチャーや講座の充実を図り、より幅広い県民の参加を促進。

県民のニーズに対応した美術館教育プログラムの作成・提供に務め、世代別・習熟度別プログラムや高齢者障がい者への実技講座やレクチャーなどの実施。

学校教育と対応して、児童生徒への鑑賞・実技指導を実施。また、学校教師への実技指導・美術教育に関する積極的な意見交換も行い連携を深めた。

美術館から職員が外に出て、様々な会場でのワークショップや授業、鑑賞研修会などを実施。

〈活動内容〉

- ・キッズプログラム（小中高校生対応） ・校外学習対応展示室での鑑賞、実技体験及び職場体験活動
- ・学校への出前授業 ・アートボックス貸出し ・施設の貸出 ・造形広場 ・創作教室
- ・みんなでつくる美術館（みなび展）の実施 ・教師のための鑑賞研究会 ・大人のための美術講座
- ・ことぶき勸学院への協力（総務課対応） ・ギャラリー・トーク ・映画会
- ・美術体験・実技講座（初心者・障がい者含む） ・県民ギャラリー利用者の創作活動PR支援

【付加価値・魅力／憩う】〈魅力あふれる美術館をめざして〉

〈質の高いサービス提供〉

- ・美術館ボランティアのスキルアップをめざして研修・学習会を実施。

〈様々な付加価値の創造〉

- ・地元音楽家・団体や学校現場との協働によるロビーコンサートを毎週日曜日に開催。
（ゴールデンウィーク期間中は毎日開催）（SPS）
- ・レストランサービスの向上をめざして運営企業と情報交換・協議。
- ・ミュージアム甲斐イン券並びに定期観覧券所持者への割引サービス。売店、レストラン。
- ・首都圏からの来館者増を目的に、中央紙への広告の掲載。（SPS）
- ・芸術文化のまちづくりでNPOを支援＝貢川アートフェスタ後援

〈県・指定管理者・県民との円滑なリレーションシップ〉

- ・本美術館の特色・魅力を十分に伝えられる情報発信・積極的な広報とパブリシティの実施。
- ・展覧会事業を報道機関と共催、県民への情報提供の機会を大幅に増やすことができた。
- ・新たな集客に向け、アンケートによる調査などを積極的に取り入れ、県民ニーズの把握に努める。

中期目標と平成27年度の具体的活動予定

1. 戦後山梨の美術を再検証するとともに、郷土関係作家の新たな展覧会を企画立案する。
2. アンケート調査などを取り入れ、県民ニーズ等の把握に積極的に取り組み集客力の向上を図る。
 - ・広報活動の強化。
 - ・観光部とのタイアップ。

【展示／見る】

- ・開催趣旨と目標（集客、研究、人気もの etc）を明確にした企画展の開催と、リピーターとして何度も美術館に行きたくくなるような常設企画の魅力ある展示のあらたな創出を図る。
- 〈常設展〉従来の常設展のイメージを一新した展示空間の創作に心がけ、テーマ展示や企画コーナーを設けるなど、新たな魅力ある展示を行う。
 - ・常設展示室（ミレー館・常設展示Ⅱ・萩原記念室）を使った年4回の常設企画展示替えを実施。
 - ・学芸員それぞれの個性を生かしてテーマ展示や新設コーナーを設け、特別展のようなタイトルを付けるなど、興味を持って鑑賞してもらえるよう精一杯の工夫や配慮をする。
 - ・萩原記念室の模様替え（萩原英雄の人となりや生涯に描いた作品を主体に展示）。

〈特別展〉

- ・夜の画家たち 一蠟燭と光のテネブリズム 4月18日（土）～6月14日（日）
- ・近代風景画の創造 ノルマンディー展 6月27日（土）～8月23日（日）
- ・ルートヴィヒ・コレクション ピカソ回顧展 9月1日（土）～10月25日（日）
- ・花の画家たち ルドゥーテのバラ展 11月3日（土）～1月17日（日）

【教育普及／学ぶ】アートレクチャーや講座の充実を図り、より幅広い県民の参加を促進。

- ・アート・カードを導入した、新たな作品鑑賞の「見るヒント」「感じるヒント」の一助になる実践を紹介。
- ・県民ニーズに応じた美術館教育プログラムの作成・提供に務め、世代別・習熟度別プログラムや障がい者への実技講座なども実施していく。
- ・教育現場と連携して、年齢ごとの学びの場として会場を提供し、キャリア教育等にも活かしていく。
- ・学校教育と対応して、児童生徒への実技指導を実施。また、学校の教師への実技指導・美術教育に関する積極的な意見交換も行い連携を深める。

〈活動内容〉

- 「博学連携を中心とした学校・社会教育施設との連携強化」
- ・キッズプログラム（小中高校生対応） ・映画会 ・職場体験授業 ・校外学習への対応（オリエンテーション、展示室での鑑賞、実技体験） ・ギャラリートーク ・学校への出張授業 ・アートボックス貸出し
- ・施設の貸出 ・創作教室 ・造形広場 ・みんなでつくる美術館（みなび） ・教師のための鑑賞研究会
- ・大人のための美術講座 ・美術体験・実技講座（初心者・障がい者含む） ・ギャラリートーク
- ・県民ギャラリー利用者への活動PR支援・ことぶき勸学院への協力 ・アート・カードの貸し出し
- 「地域との連携強化」
- ・甲府市並びに甲斐市との連携の強化。
- ・美術館周辺校との連携（新田小学校の総合学習の時間を利用したギャラリー・トークの実施）。

【付加価値・魅力／憩う】美術館への好感度向上をめざして、さまざまな取り組みを実施。

- ・質の高いサービスを提供するため、研修の強化などを行い、引き続き美術館ボランティア（案内、解説、情報 etc.）のスキルアップに務める。
- ・様々な付加価値の創造に継続して取り組む。
- ・地元音楽家・団体、学校のコーラス部との協働による週末のロビーコンサートや小イベントを継続して実施。
- ・ミュージアムショップでの楽しい買い物に向けて、魅力ある新商品の開発等を実施。
- ・県民との円滑なリレーションシップを目指して、本美術館の特色・魅力をしっかりと情報発信。
- ・やまなしの文化情報ネットワークやノウハウを最大限活用した積極的な広報とパブリシティの実施。

▶▶▶▶▶▶ これらの取り組みを着実に進めて、より多くの県民の来館に結びつける。

山梨県立美術館の観覧者数の推移

年度	開館日数	常設展	特別展	観覧者数合計
S53	118	160,594	91,501	252,095
54	295	316,325	152,418	468,743
55	298	410,214	110,951	521,165
56	297	421,759	124,772	546,531
57	296	401,864	107,843	509,707
58	295	391,408	118,381	509,789
59	298	416,423	87,280	503,703
60	299	396,782	193,786	590,568
61	302	443,656	116,263	559,919
62	298	454,876	78,845	533,721
63	296	471,011	109,642	580,653
H1	304	408,088	71,341	479,429
2	293	409,354	69,818	479,172
3	300	379,707	162,035	541,742
4	290	359,582	155,457	515,039
5	287	320,179	97,028	417,207
6	278	270,067	79,467	349,534
7	300	262,845	71,246	334,091
8	289	276,556	86,910	363,466
9	293	202,358	53,780	256,138
10	281	266,846	167,521	434,367
11	298	176,533	89,962	266,495
12	300	149,708	84,963	234,671
13	301	122,857	65,484	188,341
14	301	166,783	131,560	298,343
15	288	90,783	43,766	134,549
16	298	115,874	83,408	199,282
17	301	100,777	50,203	150,980
18	309	96,898	35,385	132,283
19	309	99,823	64,421	164,244
20	307	112,410	85,669	198,079
21	309	117,250	57,803	175,053
22	310	98,986	61,123	160,109
23	310	103,181	84,090	187,271
24	311	120,650	67,736	188,386
25	306	97,569	59,204	156,773
26	160	103,840	87,483	191,323
計	10,725	9,314,416	3,458,545	12,772,961

平成26年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	27	8,168
5	27	8,373
6	25	8,118
7	27	11,840
8	29	60,653
9	25	6,688
10		
11		
12		
1		
2		
3		
計	160	103,840

平成25年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	26	6,857
5	27	8,678
6	26	7,863
7	26	7,267
8	28	12,533
9	25	8,239
10	28	9,717
11	28	13,520
12	24	4,206
1	26	7,883
2	22	4,387
3	20	6,419
年度計	306	97,569

9月まで計	158	51,437
-------	-----	--------

前年比 201.9%

特別展・新収蔵品展等 (H26年9月まで)

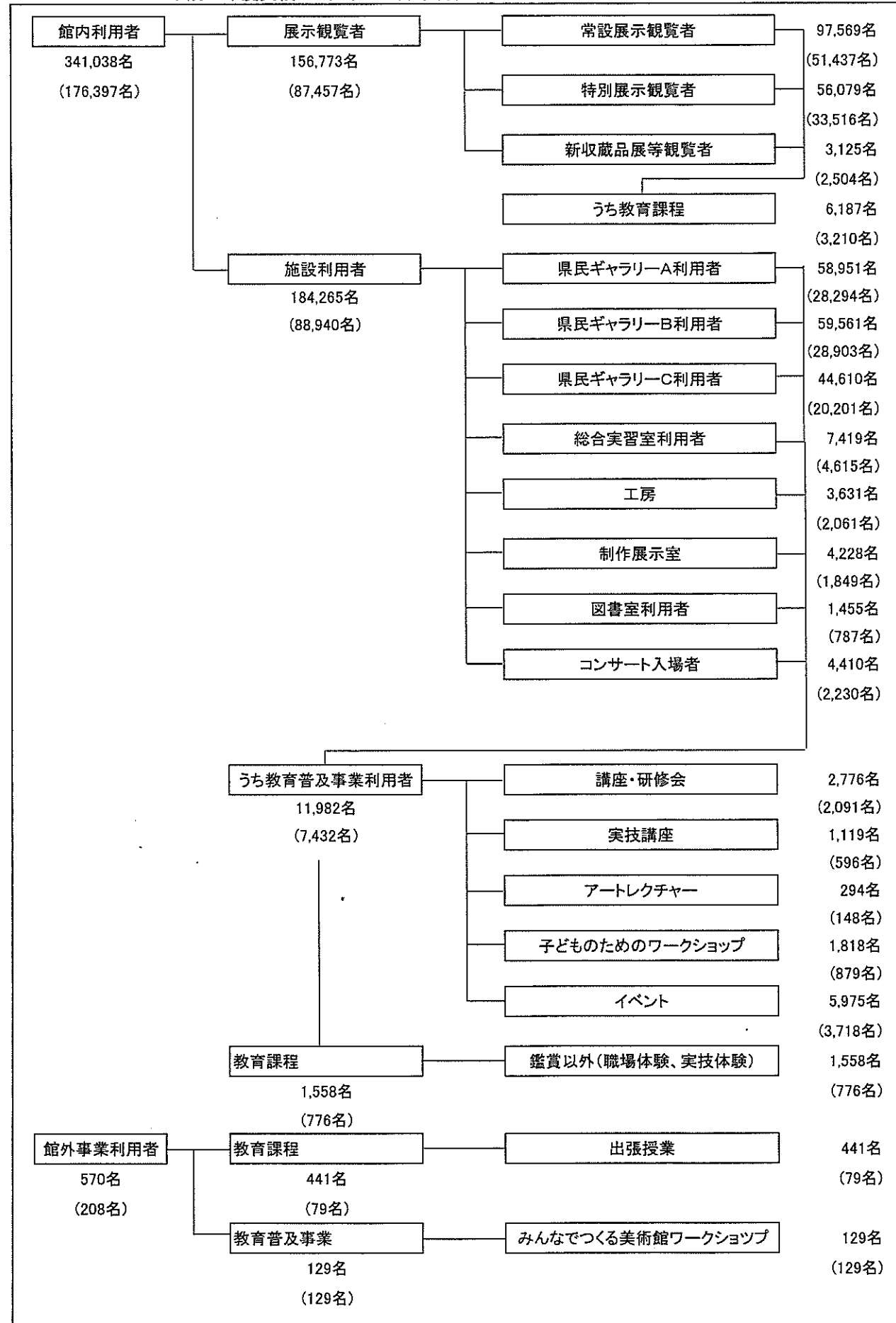
展覧会名	開催日数	観覧者数
H25新収蔵品展	12	2,564
キネティックアート展	45	11,269
生誕200年 ミレー展	40	72,437
やまなしの戦後美術展	9	1,213
佐伯祐三とパリ展		
H26新収蔵品展		
	106	87,483

特別展・新収蔵品展等 (H25年度)

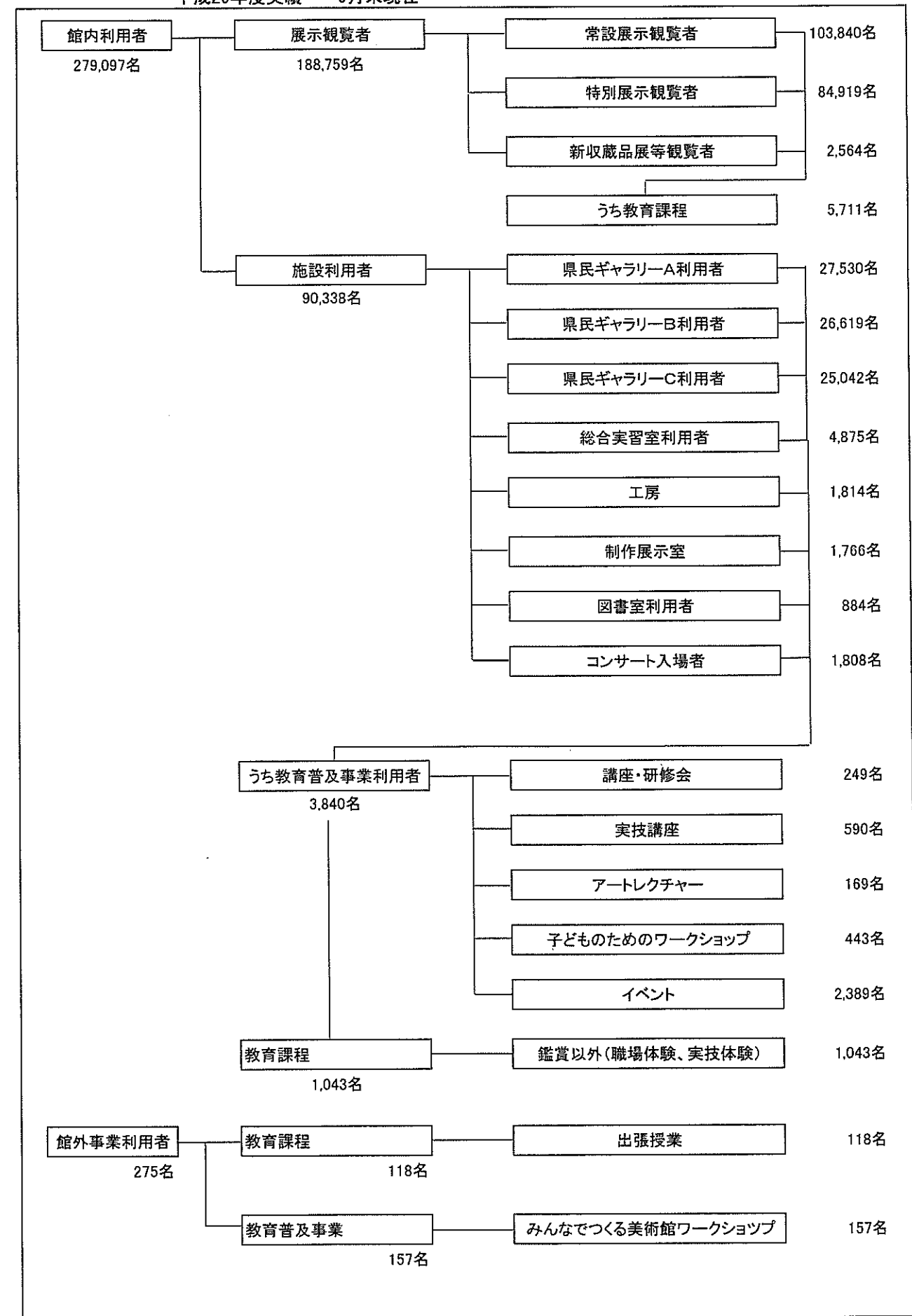
展覧会名	開催日数	観覧者数
H24新収蔵品	12	2,504
望月春江展	39	9,316
やまなしの美術館大全展Ⅱ	14	4,481
ハーグ展	39	13,964
日本のわざと美展	33	9,554
生誕100年 萩原英雄展	41	12,070
クリスマス&お年玉企画展 動物ものがたり展	29	6,694
H25年新収蔵品	2	621
	209	59,204

美術館における「利用者」の状況

平成25年度実績 ()は9月末現在



平成26年度実績 9月末現在



○美術館の利用者とは、美術館の施設、提供するサービスを利用した者および美術館の事業・活動に参加したすべての対象者をいいます。

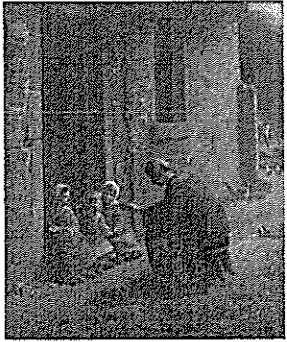



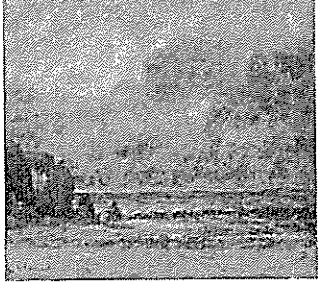

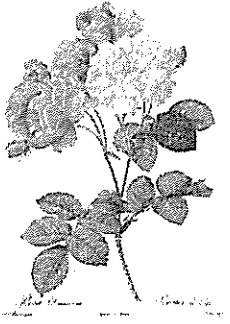
平成25年度 特別展一覧

特別展名	期間	概要	観覧者数
山梨県立美術館新収蔵品展	3月30日(土) ~ 4月14日(日)	平成24年度に新たに収蔵した資料を中心に公開しました。	3,082人
富士の国やまなし国文祭記念事業 「望月春江とその時代」	4月27日(土) ~ 6月9日(日)	望月春江(1893-1979)は、甲府市に生まれ、東京美術学校(現、東京藝術大学)日本画科を首席で卒業後、第9回・10回帝展で続けて特選を果たし、一躍、その名が世に知られました。その後も帝展、文展で活躍し、昭和33年には日本芸術院賞を受賞しました。 本展は、開館して間もなく開催された望月春江展から30年以上を経て、新たに発見された作品や資料を加え、改めて春江の画業を顕彰する展覧会を開催しました。	9,316人
富士の国やまなし国文祭記念事業 やまなしの美術館大全「水をめぐる旅」	6月15日(土) ~ 6月30日(日)	山梨県には、多彩な活動をするミュージアムが各地に存在します。本展覧会には県内27館が参加し、所蔵作品を県立美術館に集結しました。展覧会期間中には、参加館のスタッフによるギャラリートークなど、関連イベントを開催し、各ミュージアムの特色を一度に楽しむことができる展覧会を開催しました。	4,481人
山梨県立美術館開館35周年記念 「近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展 バルビゾンへの憧れ、ゴッホの原点」	7月13日(土) ~ 8月25日(日)	19世紀初頭、フランスのバルビゾン派の活動を見ながら、オランダの首都デン・ハーグを拠点として風景画に取り組んだ「ハーグ派」と呼ばれる画家たちがいました。 本展は、当館のコレクションの中心であるバルビゾン派とつながりの深いハーグ派を紹介することにより、ヨーロッパ全体に広がった近代的な絵画思想の芽生えを展覧する展覧会を開催しました。	13,964人
富士の国やまなし国文祭記念事業 「日本のわざと美」展 ー重要無形文化財とそれを支える人々ー	9月7日(土) ~ 10月14日(月)	重要無形文化財のわざと、文化財を支える技術を公開する文化庁の事業として、「人間国宝」とよばれる重要無形文化財の保持者たちの優れた「わざ」と「美」を紹介しました。陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、手漉和紙など、伝統技術に裏打ちされた多様な工芸分野の美を約190点の作品で味わうことができる展覧会を開催しました。	9,554人
富士の国やまなし国文祭記念事業 「生誕100年 萩原英雄展」	10月26日(土) ~ 12月8日(日)	萩原英雄(1913~2007)は、甲府市に生まれ、東京美術学校(現、東京藝術大学)で油絵を学んだ後、木版画の制作を始めました。木版画とともに油絵の制作も続け、数多くの作品を残しました。 本展は、作家から寄贈された約4000点の中から作品を選び出し、生誕100年を迎えた萩原英雄の軌跡を振り返る展覧会を開催しました。	12,070人
美術館からのクリスマス・プレゼント&お年玉企画展 「動物ものがたり」	12月14日(土) ~ 1月19日(日)	絵本や物語の主人公として大活躍する動物たちを、絵本原画を展示することで紹介します。「動物図鑑」のコーナーでは、生涯動物を描き続けた絵本画家、藪内正行作品を紹介します。また「絵の中の動物たち」のコーナーでは、当館所蔵品から動物が描かれた作品を展示します。触って楽しむ、つくって楽しむ造形広場も開催を開催しました。	6,694人
山梨県立美術館新収蔵品展	3月29日(土) ~ 4月13日(日)	平成25年度に新たに収蔵した資料を中心に公開しました。	3,185人

※「山梨県立美術館新収蔵品展」の観覧者数は会期全体の数で、平成25年度以外の観覧者数を含みます。

H26 (2014) 年度 山梨県立美術館特別展概要

H27 (2015) 年度 山梨県立美術館特別展概要

名称	動く!光る?魔法の芸術 キネティックアート展	生誕200年 ミレー展 ～愛しきものたちへの まなざし～	やまなしの戦後美術 四人の革新者たち	大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角	夜の画家たち -蠟燭の光と テネブリスム-	近代風景画の創造 ノルマンディー展 (仮称)	ルートヴィヒ・コレクション ピカソ回顧展 (仮称)	花の画家 ルドゥーテのバラ展 (仮称)
会期	2014年4月26日(土) ～6月15日(日)	2014年7月19日(土) ～8月31日(日)	2014年9月20日(日) ～11月3日(月・祝)	2014年11月15日(土) ～2015年1月18日(日)	2015年4月18日(土) ～6月14(日)	2015年6月27日(土) ～8月23(日)	2015年9月1日(火) ～10月25(日)	2015年11月3日(火) ～2016年1月17(日)
展示内容	1950～60年代にかけて、「キネティック・アート(動く芸術)」と呼ばれ、目の錯覚を利用したり、電気で動いたり、光を使った美術作品が、新しい美術の動きとしてヨーロッパを皮切りにアメリカでも紹介され、世界中で注目を集めた。現代アートの表現につながる動向と言える。本展は、不思議な動きと光、錯視による芸術を、イタリアの作家たちの作品を中心に紹介した。ブルーノ・ムナーリなどの作品約90点を展示、いずれも日本初公開。	2014年は、ジャン＝フランソワ・ミレーの生誕200年にあたる年となる。これを記念し、フランス、アメリカ他、海外の所在の優品に、国内所蔵作品の名品を加え、ミレーの作品世界を紹介した。初期から晩年までのミレーの画業を通観するとともに、これまでいわゆる「農民画」の周辺作品と捉えられがちであった、家族の肖像、生活の情景や風景を描いた作品にも改めて焦点をあて、画家ミレーの全貌を捉え直した。	山梨県立美術館では、1984年から1998年までビエンナーレ形式で、県出身の新進気鋭の作家たちを対象に選抜展を開催した。山梨の戦後現代美術を総括する上でも重要な展覧会であった。本展では、その後も意欲的に作家活動を行ってきた、橘田尚之、松田富彌、河内成幸、深沢軍治の四人に焦点を当て、山梨ゆかりの現代作家の革新的な表現を紹介している。	30歳で夭折した佐伯祐三の、短くも鮮烈な画業を回顧する。渡仏した佐伯は、パリの石造りの建物やポスターが貼られた壁にモチーフを見出し、独自の様式を確立した。本展では、フランス滞在中に制作された佐伯作品を中心に、佐伯と交流のあった同時代の画家の作品や当時の雰囲気伝えるポスターを展示し、佐伯が魅せられた芸術の都パリの息吹を紹介する。	西洋の絵画技法に、光や炎によって夜や闇の中に劇的に対象を浮かび上がらせるテネブリスム(明暗主義)がある。この技法は近代の日本人画家を魅了し、亜欧堂田善、高橋由一から高島野十郎まで、独自の明暗表現を手がける日本の「夜の画家」たちが出現した。本展では、近代日本の闇と光の世界を、フランスの巨匠ラ・トゥールの作品などとも対比させながら明らかにする。	フランス北部ノルマンディーはフランスで最も人気のある保養地の一つで、19世紀初頭、英仏の浪漫主義の画家たちによって、風光明媚なこの地の古い町並みや遺跡が描かれるようになった。その後、移ろいゆく光の表情や、余暇を楽しむ近代生活の情景を描いた印象派のふるさととなった。本展では、近代風景画の発展に寄与したノルマンディーの役割を、アンドレ・マルロー美術館を始め、国内外の所蔵作品により検証する。	ピカソは、油彩の他に素描、水彩、版画、陶芸などを手がけ、様々な表現手法を試みた。ドイツ・ケルンにあるルートヴィヒ美術館は、ルートヴィヒ夫妻が1950年頃から収集したピカソ作品約7200点の寄贈によって設立された。本展では、ルートヴィヒ美術館のコレクションから、ピカソの初期から晩年までの油彩、版画、陶器等を展示する。また、マン・レイやロバート・キャパなど有名写真家たちによるピカソのポートレートも出品する。	ベルギー出身のルドゥーテは、フランス王妃マリー・アントワネットやナポレオンの皇妃ジョゼフィーヌ付きの植物画家として重用された。ルドゥーテはステイプル・エングラーヴィングの超絶技巧によって、花卉の一枚一枚まで正確に且つ柔和に表現し、「花のラファエロ」とも称えられた。本展では、「ボタニカル・アート」の金字塔として現在も多くの人々を魅了し続けている、ルドゥーテの代表作『バラ図譜』『美花選』を紹介する。
画像								
キャプション	フランコ・グリニャーニ 《波の接合33》1965年	ジャン＝フランソワ・ミレー 《子どもたちに食事を与える女 (ついでに)》1860年	深沢軍治 《蓋(地上にて)》1985年	佐伯祐三 《レストラン (ホテル・デュ・マル シエ)》1927年	近藤浩一路 《下京の夜》1913年	ギュスターヴ・クールベ 《海景、風》	パブロ・ピカソ 《読書する女の頭部》1953年	ジョゼフ・ルドゥーテ 『バラ図譜』より 《ロサ・ダマスケーナ》

平成25年度 教育課程における入館者数

(1) 小学校

地区	回数校数	人数
甲府	34	1,701
中巨	1	44
東山	1	23
笛吹	0	0
南巨	2	41
西八	0	0
北巨	3	71
南都	0	0
北都	0	0
法人	0	0
私立	3	130
県外	4	314
計	48	2,324

引率者	118
-----	-----

(2) 中学校

地区	回数校数	人数
甲府	18	77
中巨	19	349
東山	1	9
笛吹	3	32
南巨	8	128
西八	0	0
北巨	11	146
南都	3	44
北都	2	52
法人	1	7
私立	2	159
県外	8	417
計	76	1,420

引率者	50
-----	----

(3) 高等学校

種別	回数校数	人数
県立	19	285
市立	0	0
私立	6	442
その他	1	88
県外	9	926
計	35	1,741

引率者	246
-----	-----

職場体験	中学校				合計
	中学校	高等学校	支援学校	合計	
回数	23	13	0	36	
参加人数	66	42	0	108	

(4) 特別支援教育

種別	回数校数	人数
県立	5	30
法人	0	0
県外	0	0
計	5	30

引率者	0
-----	---

(5) その他

	団体数	人数
計	8	672

引率者	26
-----	----

実技体験	小学校					合計
	小学校	中学校	高等学校	支援学校	その他	
回数	27	15	0	2	2	46
参加人数	1,166	244	0	10	30	1,450

月別入館者数

月	回数	人数
4	11	144
5	29	1,029
6	18	950
7	26	536
8	23	183
9	9	593
10	12	639
11	25	899
12	8	441
1	5	584
2	6	408
3	7	221
計	179	6,627

引率者計	440
------	-----

平成26年度 教育課程における入館者数

平成26年9月末現在

(1) 小学校

地区	回数校数	人数
甲府	12	588
中巨	0	0
東山	0	0
笛吹	0	0
南巨	1	16
西八	0	0
北巨	0	0
南都	0	0
北都	1	5
法人	0	0
私立	1	13
県外	5	459
計	20	1,081

引率者	44
-----	----

(2) 中学校

地区	回数校数	人数
甲府	10	134
中巨	26	288
東山	0	0
笛吹	4	34
南巨	9	51
西八	0	0
北巨	10	204
南都	4	36
北都	6	84
法人	0	0
私立	1	45
県外	5	660
計	75	1,536

引率者	152
-----	-----

(3) 高等学校

種別	回数校数	人数
県立	13	443
市立	0	0
私立	3	358
その他	0	0
県外	5	638
計	21	1,439

引率者	64
-----	----

(4) 特別支援教育

種別	回数校数	人数
県立	5	76
法人	0	0
県外	0	0
計	5	76

引率者	58
-----	----

(5) その他

	団体数	人数
計	15	1579

引率者	132
-----	-----

月別入館者数

月	回数	人数
4	17	1,445
5	51	2,353
6	17	1,030
7	31	515
8	13	165
9	7	653
10	0	0
11	0	0
12	0	0
1	0	0
2	0	0
3	0	0
計	136	6,161

引率者計	450
------	-----

職場体験	中学校				合計
	中学校	高等学校	支援学校	合計	
回数	18	9	0	27	
参加人数	106	22	0	128	

実技体験	小学校					合計
	小学校	中学校	高等学校	支援学校	その他	
回数	13	2	0	2	2	19
参加人数	708	110	0	58	39	915

キッズ・プログラム

～ 小・中・高校生が楽しめる内容のプログラムです ～

特別展について学芸員と一緒に鑑賞・体験しよう！！

やまなしの戦後美術— 四人の革新者たち

「ふわふわギザギザ、五感で味わう不思議なかたち」

陶芸作家、^{まつだ とみや}松田富彌さんの作品について、見たりつくったりして学びます

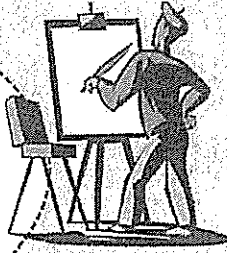
日時：10月25日（土）

①午前10時～11時30分 ②午後2時～3時30分

対象：小・中学生（定員 各回30名）

講師：松田百合子氏（陶芸作家）

申込期間：9月25日～10月24日



大阪新美術館コレクション

佐伯祐三とパリ

ポスターのある街角

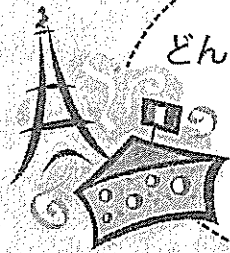
「パリの街並み探検」
どんな街並みが描かれているのかな？レクチャーと創作活動を行います

日時：12月20日（土）午後1時30分～3時30分

対象：小学生とその保護者（定員30名程度）

申込期間：11月20日～12月19日

※必ず保護者と一緒に参加してください※



みんなで楽しくつくろう！

大阪新美術館コレクション

佐伯祐三とパリ

ポスターのある街角
「創作教室 ダンボールをつかってパリの街をつくろう」

日時：12月7日（日）

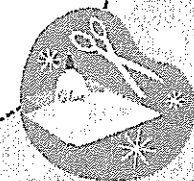
①午前10時～12時 ②午後1時30分～3時30分

対象：小学生以上（定員30名程度）

※低学年は保護者がお手伝いください※

講師：三井正人氏（帝京短期大学教授）

申込期間：11月7日～12月6日



美術館にかかわる仕事を知ろう！

中高生のためのアートレクチャー

「プロに学ぶ伝統の技 表具体験」

日時：9月13日（土）午前10時～午後3時30分

対象：中学・高校生（定員30名）

講師：新海安幸氏（表具師）

持ち物：半紙に墨で描いた作品1枚（文字でも絵でも可）

昼食

申込期間：8月13日～9月12日



美術館の誕生日に家族で楽しく学ぼう！

家族で美術館を楽しむ日

「つくってかんじる 日本の美術（屏風編）」

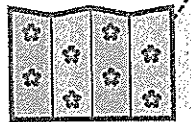
日本の生活の中に生きる「美」を見たり作ったりしながら味わおう

日時：11月3日（月・祝）

①午前10時～11時30分 ②午後2時～3時30分

対象：小学生とその家族（定員各回30名）

申込期間：10月3日～11月2日



詳細は美術館 HP,NEWS, 各プログラムごとのチラシでご確認ください

各プログラムは申し込みが必要です。対象学年をご確認の上、お申し込みください

申し込み方法：電話またはFAXでお申し込みください。

希望コース名・氏名（ふりがな）・学校名・学年・電話番号（FAXがある方はFAX番号）・参加する保護者名をお知らせください。

（申し込まれた方の個人情報は、本事業のみを利用目的とし、当館で適切に管理します。）

問い合わせ・申し込み先

山梨県立美術館「キッズ・プログラム」係

Tel. 055-228-3322 Fax. 055-228-3324

（電話受付時間：開館日9：00～17：00）

山梨県立美術館 美術体験・実技講座

様々な美術表現を体験しながら、美術作品の鑑賞の糸口を見つけてみませんか。初めて挑戦される方のための初心者コース、障がい者のための講座、技術を深めてみたい方には実技講座を開設します。

No.	講座名/講師	内容・期間(日時)	申込期間
1	版画 オープン・アトリエ①前期 オープン・アトリエ①後期	版画を専門的に制作している方へ、制作の場所を提供します。 期間：前期4月1日(火)～5月2日(金) 午前9:00～午後4:30 後期：後期5月27日(火)～6月12日(木) 午前9:00～午後4:30 *作家による指導はありませんが、指導員が初心者の相談にのります。	3月23日～4月20日 後期のみ参加の方は、5月16日～25日
2	版画 〔スクリーン・プリント〕 初心者コース	乳版(スクリーン・プリント/シルクスクリーン)を理解する初心者のための講座です。この初心者コース受講者でNo. 6の〔スクリーン・プリント〕講座へ進まれる方はこの日にお申し込みください。 講座日：4月27日(日) 午前10:00～午後3:30 材料費約800円 *美術館職員が指導に当たります。	4月11日～19日
3	現代美術 「平面模様のアン3プル！」 作家：村松俊夫	★特別展「キネティック・アート展」関連の講座です。 1つの額の中に3つの絵がチラチラ・ゆらゆら動いて見える！モアレ(干渉波)の効果を応用した、不思議なレリーフ(半立体)作品をつくりましょう。材料費約500円 講座日：5月3、4日(土・祝、日) 午前10:00～午後4:00(2日間連続講座)	4月15日～26日
4	絵画 〔日本画〕経験者コース 作家：目黒祥元	日本画制作経験があり、自主制作しながら年間4回参加できる方を対象とします。 作家指導日：5月18日(日)・11月22、23日(土、日)・2月22日(日) 午前10:00～午後4:00	4月27日～5月10日
5	絵画 〔日本画〕初心者コース 作家：目黒祥元	日本画はどのような材料を使って描くのでしょうか。時間をかけ日本画の初歩を学びます。①はオリエンテーションのみで②から本格的な制作に入ります。 作家指導日：①5月18日(日) 午後3:00～4:30 材料の説明と今後の準備 ②11月16日(日)・11月22、23日(土、日)・2月22日(日) 午前10:00～午後4:00(①②あわせて5日間講座)	4月27日～5月10日
6	版画 〔スクリーン・プリント〕 作家：山口純寛	スクリーン・プリント(シルクスクリーン)で自分なりの作品を創ってみませんか。(初心者は初心者コース受講者のみ対象です。) 作家指導日：5月24、25日(土、日) 午前9:10～午後4:30(2日間連続講座) *材料購入希望者は4月27日(日)午後3:30～工房にて注文を受け付けます。	4月11日～19日
7	障がい者のための講座 色や形を楽しもう！①	[みなび(みんなで作る美術館)]の1つです。 講座日：6月19日(木) ①午前10:00～11:30 ②午後1:30～3:00 *美術館職員が指導に当たります。上記の①②から希望の時間をお選びください。 ご希望があれば保育園、幼稚園、特別支援学級、学校など団体で参加できます。	施設・園、学校など 団体参加の場合のみ 事前にご連絡ください。
8	版画 〔木版画〕 初心者コース	木版画に触れる初心者のための講座です。単色木版画を制作します。この初心者コース受講者でNo.10の〔木版画〕講座へ進まれる方はこの日にお申し込みください。 講座日：9月14日(日) 午前10:00～午後3:30 材料費600円 *美術館職員が指導に当たります。	8月27日～9月5日
9	現代美術 「林檎は2度おいしい」 作家：橋田尚之	★特別展「山梨の戦後美術-四人の革新者たち」出品作家による関連の講座です。 まず、林檎の皮をむいて林檎を食べます。おなかの中の林檎を感じながら、リンゴの皮を利用して・・・自由にアイデアを練って作品をつくります。 期間：9月20日(土)～27日(土) 材料費 400円 作家指導日：9月20日(土)・27日(土) 午前10:00～午後4:00	9月1日～10日
10	版画 〔木版画〕 作家：河内成幸	★特別展「山梨の戦後美術-四人の革新者たち」出品作家による関連の講座です。 本格的な多色木版画に挑戦します。(初心者は初心者コース受講者のみ対象です。) 期間：10月12日(日)～26日(日) 作家指導日：10月12日(日)・18日(土)・19日(日)・26日(日) 午前10:00～午後4:00 *材料購入希望者は9月14日(日)午後3:30～工房にて注文を受け付けます。	8月27日～9月5日

11	版画 オープン・アトリエ②	木版画をさらに深めたい方、版画を専門的に制作している方へ、制作の場所を提供します。木版画講座へ申し込まれた方は、講座期間中にお申し込みください。 期間：10月27日(月)～11月12日(水) 午前9:00～午後4:30 *作家による指導はありませんが、指導員が初心者の相談にのります。	10月17日～26日
12	現代美術 「観て描くコトと見ないコト」 作家：深沢軍治	★特別展「山梨の戦後美術-四人の革新者たち」出品作家による関連の講座です。 写真を準備し、それを使用して、油彩やアクリル絵の具で描きます。しかし、本当にそれだけなのか、秘密が一杯です。 作家指導日：11月1、2日(土、日) 午前10:00～午後4:00(2日間連続講座)	10月12日～21日
13	絵画 〔油彩画〕 作家：冨家昭雄	作家の制作に対する考えをうかがいながら、技法の指導を受け制作します。 期間：1月11日(日)～2月1日(日) 作家指導日：1月11日(日)・18日(日)・25日(日)・2月1日(日) 午前10:00～午後4:00	12月11日～20日
14	オープン・アトリエ (版画以外)	油彩、水彩、日本画、デッサン、彫刻など、自由に制作できる場所を提供します。 期間：2月3日(火)～3月1日(日) 午前9:00～午後4:30 *作家による指導はありません。	1月22日～2月1日
15	障がい者のための講座 色や形を楽しもう！②	色々な形と色を使って遊んでみましょう。 講座日：2月5日(木) ①午前10:00～11:30 ②午後1:30～3:00 *美術館職員が指導に当たります。上記の①②から希望の時間をお選びください。 ご希望があれば保育園、幼稚園、特別支援学級、学校など団体で参加できます。	施設・園、学校など 団体参加の場合のみ 事前にご連絡ください。

注意事項

- ★中学生以上対象。定員は約20名。初めて講座を受けられる方が優先です。
- 初めの方が多い場合は、申込期間内に受け付けた方から抽選させていただきます。
- ★障がい者のための講座受講希望者は申し込みの必要はありません。特別に配慮の必要な障がいをお持ちの方や、施設、園、学校など団体で参加される場合のみ事前にご連絡ください。
- ★全くの初心者、ちょっと経験してみたいという方は、初心者コースをご利用ください。
- ★作家指導日に欠席がわかっている方は申し込みをご遠慮ください。また、遅刻早退無しが前提です。
- ★基本的に講座期間中は休館日を除いて、毎日午前9:30から午後4:30まで自主制作することが出来ます。ただし日本画は11月の期間のみです。
- ★受講料は無料です。ただし、別途材料費を必要とする講座もあります。
- ★必要な用具・材料は通知(返信はがき)をご覧になり、各自ご用意ください。
- ★版画オープンアトリエをご利用の方は、インク、薬品等の共用品代が必要になります。別途お知らせします。
- ★講座終了日には大掃除がありますので協力ください。

申し込み方法

往復はがきでお申し込みください。

往信面に ①講座名 ②〒・住所 ③氏名・年齢(学生の場合は学校名・学年)
④電話番号(FAX番号も) ⑤経験の有無を記入してください。
返信面には申込者の〒・住所・氏名を必ず記入してください。
※申し込まれた方の個人情報、本事業のみを目的とし、当館で適切に管理します。

申し込み先

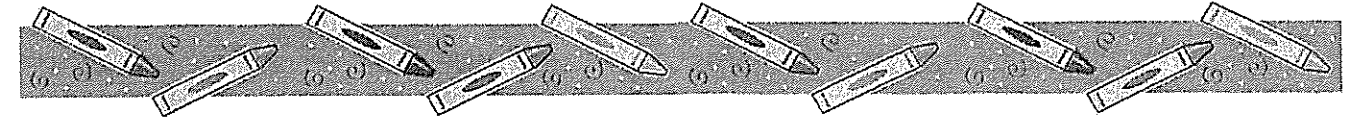
山梨県立美術館「美術体験・実技講座」係
〒400-0065 甲府市貢川1-4-27
TEL 055-228-3322(代表) Fax 055-228-3418(学芸課直通)

平成 26 年度 教師のための鑑賞研究会

	研究会名(会期)・実施内容	実施日時
1	動く!光る?魔法の芸術 キネティック・アート展 (4月26日~6月15日) キネティック・アート(動く芸術)とは、機械じかけで動いたり、光ったり、錯視を利用した作品をさします。本展では、ブルーノ・ムナーリ、ジャンニ・コロポライタリアの作家を中心に約90点を展示します。	5月22日(木) 午後4時~5時
2	アートカード「みるえ」 生まれたての鑑賞教材、山梨県立美術館アートカード「みるえ」に実際に触れていただいたり、実践校における子どもたちの様子を見ていただきます。専門の先生はもちろん、教科外の先生方、特に図工美術の鑑賞指導に興味や悩みを持つ先生方、この教材に是非触れてみてください。言語活用能力の育成にも役立ちます。	6月3日(火) 午後4時~5時
3	生誕200年 ミレー展 ~愛しきものたちへのまなざし~ (7月19日~8月31日) 平成26(2014)年は、ジャン=フランソワ・ミレー(1814-1875)の生誕200年にあたる年となります。本展はこれを記念し、フランス、アメリカ他、海外の所在の優品に、国内所蔵作品の名品を加え、ミレーの作品世界を紹介します。	8月1日(金) 午後4時~5時
4	生誕200年 ミレー展&アートカード 前半部分ではアートカード「みるえ」についての研修会を行い、後半は「生誕200年 ミレー展 ~愛しきものたちへのまなざし~」についての研修を行います。夏季休業中の研修・研鑽にご利用ください。	8月7日(木) 午後3時~5時
5	四人の革新者たち ー山梨の現代美術 四十年の軌跡ー (9月20日~11月3日) 山梨県立美術館では、1984年から1998年の間県出身の新進気鋭の作家たちを対象に選抜展を開催しました。本展では、その後の作家活動が特に顕著な作家たちの消息を追いながら、時代やジャンルなどのテーマを設定し、山梨の現代作家の歴史的な検証とそれぞれの作家の代表作を紹介します。	10月7日(火) 午後4時~5時
6	大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角 (11月15日~1月18日) 30歳の若さで夭折した天才画家、佐伯祐三(1898-1928)の、短くも鮮烈な画業を回顧します。本展では、フランス滞在中に制作された佐伯作品に加え、佐伯と交流のあった同時代の画家の作品や当時のパリの雰囲気伝えるポスターを展示し、佐伯が魅せられた芸術の都パリの息吹を紹介します。	11月18日(火) 午後4時~5時

山梨県立美術館 教育普及 平林・中島・五味
Tel055-228-3258 Fax 055-228-3418

山梨県立美術館



つくろう!あそぼう! 造形広場

<平成26年度の予定>

- 5月10日 「パタパタUF0」
- 6月14日 「パステル発見」
- 7月12日 「アルミ箔で工作」
- 9月6日 「ヘッドレス」
- 10月11日 「動く絵をつくろう」
- 11月8日 「イーゼルを使って絵を描こう」
- 12月13日 「クリスマスツリーをつくろう」
- 1月10日 「凧を飛ばそう」
- 1月31日 「重ねて見る絵」
- 2月28日 「組み込み動物」



講師 伊藤美輝先生
(山梨学院短期大学保育科教授)
学生ボランティア
時間 午後1:30~3:30
場所 ワークショップ室
対象 幼児・小学生
定員 先着100名程度
参加無料・申込不要
すべて土曜日に開催



創作教室



講師 三井正人先生
(帝京学園短期大学教授)
学生ボランティア
場所 ワークショップ室
対象 小学生以上
定員 内容によって変わります
要材料費・申し込み

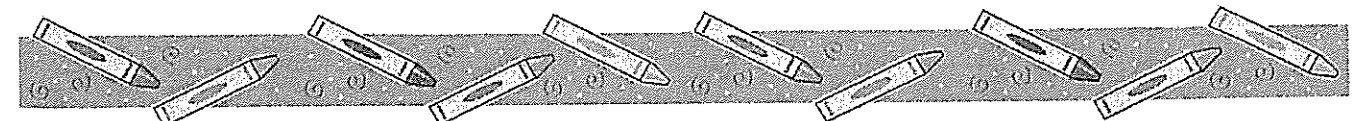
12月7日(日)

大阪新美術館コレクション
「佐伯祐三とパリ」ーポスターのある街角ー
展覧会にあわせてワークショップです



*内容、時間など直前の変更もあります。
各回の詳細はホームページまたは直前の
チラシでご確認ください。

お問い合わせ
〒400-0065 山梨県甲府市貫川1-4-27
山梨県立美術館 造形広場・創作教室係
TEL 055-228-3322



みなび

みんなでつくる
びじゅつかん

■アートではっけん! ● ミレーを知ろう! ▲

「みんなでつくる美術館(みなび)」は、大人や子ども、障がいをもつ方、アーティストなど誰もが参加できる参加型展覧会です。本年度は特別展「生誕200年ミレー展」とリンクした内容で実施します。つくったり、かいたり、体をうごかしたり…。みんなで一緒に、「アートではっけん! ミレーを知ろう!」をテーマに、ワークショップや展覧会をつくりあげ、ミレー展を応援していきませんか?新たにミレーを再確認したり、思わぬはっけん!があるかもしれません。

- ★開始時間10分前までに会場に来てください。★各回定員は先着100名程度です。
- ★各会場とも駐車場が限られています。お車は乗り合わせてお越し下さい。
- ★野外で活動する場合があります。暑さ対策をしてお出かけください。
- ★雨天時はすべて室内で行います。
- ★ワークショップの内容は変更になる場合があります。

ワークショップ

み 6月19日(木)
①午前10:00~11:30
②午後1:30~3:00

「色や形を楽しもう!」

会場: 県立美術館 工房
講師: 県立美術館職員

パステルや絵の具を使います。絵の具で色遊びしながら作品をつくっていきます。さて、なにができるかな? 思わぬはっけんがきっとありますよ!

※県立美術館障がい者のための講座といたします。

申込不要 参加無料

ん ミレーを知ろう! ①
6月21日(土)
午後1:30~3:30

「種をまく人をつくろう」
〜一家に一体(ひとり)種をまく人〜

会場: 山梨学院大学(甲府市) 21号館 図工室/103教室
講師: 伊藤美輝氏とその学生(山梨学院短期大学教授)
協力: 佐藤拓哉氏

段ボールで《種をまく人》の人形をつくります。なんと種を飛ばす仕掛けもつきます。みんなで工作の前に種をまく動きを体験します!

申込不要 参加無料

な ミレーを知ろう! ②
6月29日(日)
午後1:30~3:30

ゴロ画伯の紙芝居「なにまく人?」
〜ゴロ画伯とライブ漫画で遊ぼう!〜

会場: 県立美術館 総合実習室
講師: 松村宏氏(イラストレーター、紙芝居師)

名画《種をまく人》を描くことになるまでのミレーの半生、経験を、ライブ漫画(エレキ紙芝居)で紹介。その後、畑にまいたものは何だったか、いったい何が生えて来るか、その先の想像を膨らませていきます。

申込不要 参加無料

で ミレーを知ろう! ③
7月6日(日) 午後1:30~3:30

「君も《種をまく人》になろう」

会場: 河口湖美術館
講師: 河口湖美術館&県立美術館スタッフ

河口湖周辺の美しい景色!ミレーが、長年住んだバルビゾン村の光景に負けません。「河口湖を背景に、君なら何の種をまく?どんな種をまく人になる?」

申込不要 参加無料

つくる ボランティア、スタッフのためのワークショップ
7月20(日)、23(水)、24(木)、25日(金)

「みなび展」会場づくり
本杉琉氏(造形作家)とボランティア、スタッフで会場づくりをします。

●事前にボランティア、スタッフとして登録してください。

★ボランティア、スタッフ募集!
別紙募集要項をご覧ください。HPからご申し込みいただけます。
★Faxでの募集要項、申込みが必要な方にはお送りしますのでご連絡ください。

作品募集 「みなび展」で展示します。

「ミレーのまなざしで描く!」
「大切なこと・もの・ひと」など「愛」をテーマに1枚の布(約90cm×90cm)に表現してみよう。

応募の方法

- ①家族や友達同士などグループでエントリーしよう。(6月29日まで)
- ②美術館で「布」をもらおう。
- ③みんなで制作しよう。
- ④美術館へ作品搬入! (7月1日~7月13日)
- ⑤みなび展を見に行こう!

★HPで募集要項をご覧になりエントリー用紙をダウンロードしてください。
★Faxで募集要項、エントリー用紙が必要な方にはお送りしますのでご連絡ください。

びじゅつかん 申込不要 参加無料

みなび展 7月26日(土)~8月5日(火) 休館日8月4日(月)

午前9:00~午後5:00(最終日は午後3:00まで)
県立美術館 県民ギャラリーC、他

左記の募集した作品や上記ワークショップの作品の一部、ワークショップの様子(ビデオや写真)を展示し、みんなで展覧会をつくりあげていきます。

▲みなび展会期中は毎日ミニワークショップを行います! お楽しみに。

■展示した作品は、8月5日(火)午後3:00~5:00に展示場場で返却します。取りに来られない方は、後日、美術館へお越し下さい。作品は9月中旬まで保管しています。

中高生のためのアートレクチャー 「プロの筆おぼえの技 表具体験」

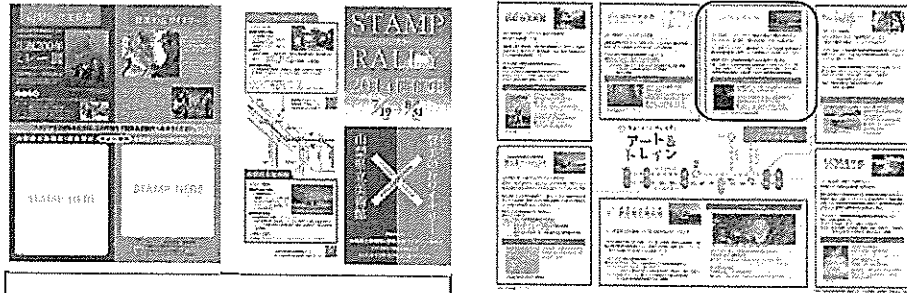
- 日時 / 9月13日(土) 午前10時~午後3時30分
- 対象 / 中学・高校生(定員30名)
- 講師 / 新海安幸氏(表具師)
- 会場 / 山梨県立美術館 工房・ワークショップ室
- 持ち物 / 半紙に墨で描いた作品1枚(絵でも文字でも可)
- 昼食

《申し込み方法》電話またはFAXでお申し込みください。
参加プログラム名・氏名(ふりがな)・学校名・学年・電話番号(FAX番号)をお知らせください。
《申し込み先》山梨県立美術館「キッズ・プログラム」係
電話: 055-228-3322 FAX: 055-228-3324
《申し込み期間》8月13日~9月12日



指定管理者活動トピックス
【1-1】関係各所との連携

美術館の関係各所や、周辺地域と積極的に連携をすることで、美術館の認知度拡大や展示会の賑わいを創出。美術館が賑わうことが地域や関係各所の賑わいにも繋がる「Win-Win」の関係となるよう、相互協力を行っている。



指定管理者の関係性を活かし、サントリー登美の丘ワイナリーとのスタンプラリーを実施。両施設のHP等における広報、また、両施設を訪れたお客様には、特典としてプレゼントを配布することで、相互の観覧者獲得を目指した。

JR東海が企画した静岡県・山梨県美術館を巡るスタンプラリーに参加。このスタンプラリーは、ミレー展における連携から、実施に繋がったもので、県外への周知にも繋げる活動となった。

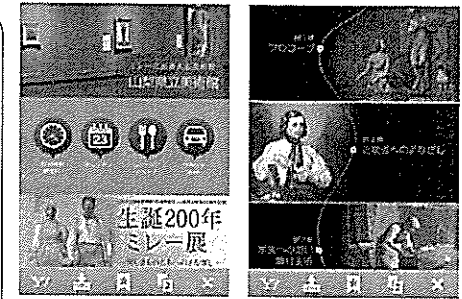
1

指定管理者活動トピックス
【1-2】WEBを活用した広報

美術館の広報活動として、WEBを積極的に活用。今年度は「フェイスブックページ」、「スマートフォン専用ページ」を新たに開設。今までにない情報をよりタイムリーに発信することで、美術館をより身近に感じてもらえるよう促している。



7月度は17本投稿。8月度は「ミレー展」情報をメインに、ほぼ毎日となる計21回更新。学芸課の協力のもと、作品紹介を行うなど、美術館の魅力の訴求に努めた。

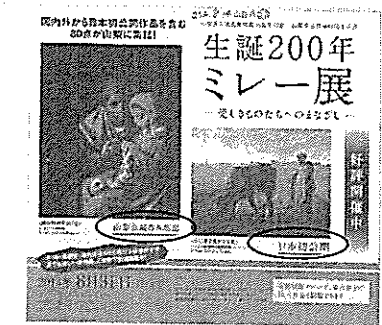


急速にスマートフォンの普及が進み、旅行先で行き先を検索したり、SNSを利用するのも、スマートフォンからの利用が圧倒的に増加していることを受け、美術館HPに「スマートフォン専用ページ」を開設

2

指定管理者活動トピックス
【1-3】特別展「ミレー展」の広報活動①

有料広告以外にも、マスメディアでの露出を図るために積極的に広報展開。関係各所に向けたリリース配信等により、通常の特展の約6倍にあたる新聞・雑誌掲載を獲得することが出来た。(181件)



「ミレー展」が持つ様々な魅力を伝えるために、新聞等での広報も工夫を凝らして展開。「三作品同時公開」や「山梨会場のみ出品」など、ミレーの美術館として知られる山梨ならではの魅力を訴求した。

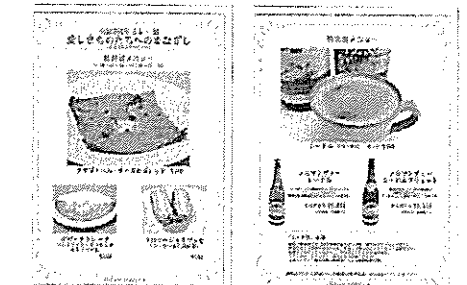


産経新聞「美の扉」への掲載を獲得。全国版+カラー版での紹介で、全国紙の文化欄としては1つの展覧会に割くスペースは最大級の大きさ

3

指定管理者活動トピックス
【1-3】特別展「ミレー展」の広報活動②

美術館「ミレー展」の開催に伴い、共同事業体の桔梗屋と連携した取り組みを実施。桔梗屋は、ミュージアムコートでの特設カフェの運営、2階エントランスでの特設ショップを実施するなど、指定管理者として展覧会を盛り上げた。



4

指定管理者活動トピックス
【1-4】広報イベントの開催

多くのお客様が来館されるGW期間中の賑わいを創出するため、ワークショップやコンサートなど様々なイベントを組み合わせた事業を展開。茶会を展覧会観覧者にも楽しんでもらえるよう初めて研修室で開催するなど、内容を毎回ブラッシュアップして実施している。



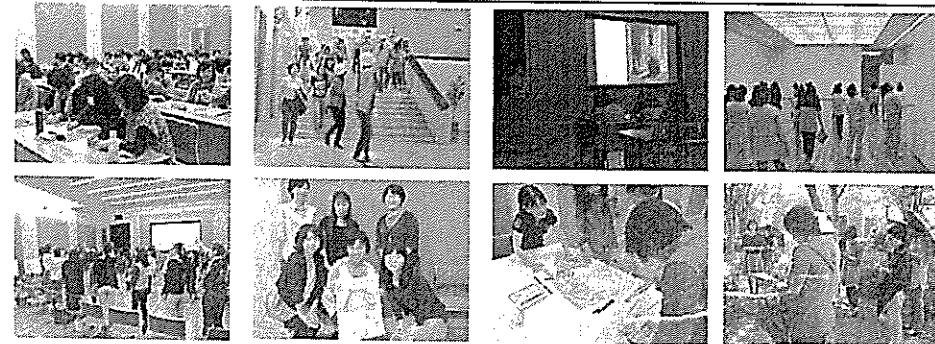
5

指定管理者活動トピックス
【2-1】ホスピタリティデザインの構築

MAスタッフ全体研修

「看視のプロチームになる」を合言葉に、「対話」「専門知識」「安全」のキーワードのもとに活動。全体研修はスタッフ自らが今の自分達にどのような研修が必要かを考え、企画している。

- 2014年3月 前年度振り返り、今年度目標共有、監視の心得再確認
- 2014年6月 ミレー展キックオフ、避難訓練
- 2014年9月 チームワーク醸成ワークショップ、アートツアー・文学の柱体験



6

指定管理者活動トピックス
【3-1】基盤整備 電力供給会社の変更

近年の電力料金高騰の影響を最小限に抑えるべく、特定規模電気事業者への切替に向けて準備。2014年10月より、新電力会社との契約により電力供給を行う。

【交渉経緯】

●2012年
 特定規模電気事業者5社に切替の打診を行うが、負荷率が高いとの理由で見積さえも取れず

●2014年～
 燃料調整費等が更に上昇し、電力料金もそれに伴い上昇。その影響を抑えるべく、再度特定規模電気事業者への切替を検討。結果として、負荷率が高い事業者でも加入が可能な、日本ロジテック協同組合への加入を決定。

7

指定管理者活動トピックス
【4】その他の活動

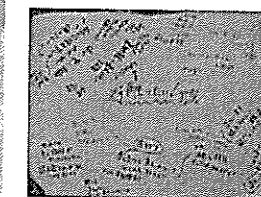
山梨県立美術館 フューチャーセッション
～みんなでつくる ハッピーミュージアム～ (4/19)



【参加者】県内外から18名が参加

【セッションテーマ】

山梨の子供たちにミュージアムを楽しんでもらうためには多様な立場の参加者と共に「子供たちに楽しんでもらうミュージアム」を実践する為のアイデア・課題を出し合う。また、美術館・文学館を中心とした新たなコミュニティづくりの第一歩とする。



8